



東京オリンピック・パラリンピック 関西・大阪の文化プログラムを考える

2020年の東京**オリンピック・パラリンピック**開催に向け、

今、日本各地でその**文化プログラム**が検討されている。

関西・大阪の文化力を世界に示す**絶好のチャンス**、

私たちはどのように企画し推進していくべきか。

歴代の五輪文化プログラムに詳しい**太下義之氏**と、

世界に上方の浪曲を発信する**春野恵子さん**と語り合った。



堀井良殷
公益財団法人 関西・大阪21世紀協会 理事長



春野恵子さん
浪曲師 公益社団法人 浪曲親友協会 理事

3つのポイント

堀井 文化を社会の活力にしようと活動している当協会は、東京オリンピック・パラリンピック開催までの4年間を、文化プログラムの実施によって市民の文化に対する関心や取り組みがさらに高まり、社会の活性化につながる絶好の機会ととらえています。とはいえ、これをどのように展開していけばよいか、実施運営のスキームをどうつくるのか、文化庁はその財源をどれだけ確保しているのか、かつての開催国はどのように取り組んだのかなど、太下さんにお伺いしたいことがたくさんあります。まずは、文化プログラムなるものについて、ご説明いただけますか。

太下 文化プログラムについては、3つの重要なポイントがあります。1つ目は、オリンピック・パラリンピックの開催と併せて文化プログラムを実施することが、オリンピック憲章に明文化されていることです。そのため文化庁は、「文化プログラムの実施に向けた基本構想(2015年7月)」のなかで、20万件の文化イベントを実施すると謳っています。前回のロンドン大会(2012年)では17万7,717件でしたから、それを上回る史上最大規模です。2つ目は、その文化プログラムを日本全国で実施するということです。ロンドン大会では、イギリス全土1,000か所以上で文化プログラムが実施されました。文化庁の基本構想でも、「全国津々浦々で実施する」としていますから、関西地方でも、かなりの数が実施されるでしょう。3つ目は、文化プログラムは、今年から始まるということです。8月のリオデジャネイロ大会の閉会式で、東京都知事に大会旗が託された瞬間から、日本の文化プログラムが動き



太下義之氏

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
主席研究員

はじめると考えていいでしょう。文化庁は今年の秋頃をキックオフと位置づけ、いわば「文化・スポーツ版ダボス会議」のような世界会議の開催も予定しています。オリンピック・パラリンピックは4年に1度ですが、文化プログラムは世界のどこかで日々行われているのです。春野恵子さんたちのご活躍の機会も増えてくると思います。

春野 オリンピックって私たち浪曲師とは関係ないだろうと思っていましたが、そうじゃないんですね。2020年というと、まだ先のことに感じますが、浪曲を世界の人に知ってもらうチャンスがすぐやってくると思うと、のんびりした気持ちではいられなくなります。

太下 大事なことは、文化プログラムはオリンピックに併せた一過性の文化イベントではなく、文化で国や地域を活性化させるための礎にしなければならないということです。IOC(国際オリンピック委員会)は「レガシー(遺産)」というキーワードをととても重視していて、オリンピック・パラリンピックを開催した都市や国が、開催後にどのようなプラス効果を上げているかに注目しています。

寄付文化の醸成

堀井 20万件の文化プログラムを全国津々浦々で行うといっても、はたして文化庁はその財源を確保できるのでしょうか。日本の文化予算は、GDP比で見れば諸外国に比べてとても貧弱です。

太下 確かに文化庁への配分は政府予算の0.1%と僅かです。先進国のなかでも最低レベルでしょう。文化庁は、昨年10月に行った2016年度の概算要求で、五輪文化プログラム実施のために前年比より多く要求したのですが、各府省庁のいわゆる事業仕分けで、河野太郎行政改革担当相から「文化プログラムは五輪便乗事業」だとされ、予算の増額はほとんど叶いませんでした。

堀井 ただでさえ文化庁予算が少ないうえに、五輪の増額分まで切られてしまったんですね。

太下 そうです。しかし、国の財政支援を受けなくてもできることはたくさんあります。ロンドン五輪では、文化プログラムの大半が、国の補助金を受けていません。従って行っていた活動を、市民の手でさらに盛り上げたんです。とはいえ、オリンピックはまたとない機会ですから、文化庁にはきちんと予算を確保していただくことが大事ですし、民間セクターによる寄付文化の醸成も必要でしょう。

堀井 民間組織による文化支援については、2014年に「アーツサポート関西(ASK)」が設立され、当協会はその事務局を運営しています。ASKは発足してまだ2年ですが、この間に5,000万円もの寄付が寄せられました。現在はそれをもとに、これまで行政の支援が行き届かなかったところに

も、「関西で文化活動を行う人を支援し、文化を支えたい」という篤志家の思いを届けています。一方、行政(大阪府・市)による「大阪アーツカウンシル」という組織もあり、大阪ではこの2つが併行して活動しています。

春野 浪曲界に身を置く者としては、伝統芸能に対する国や自治体からの支援が諸外国に比べて少なすぎるように感じる一方、そうした支援に頼らず自分たちでお客様を増やす努力をしなくてはという2つの思いがあります。浪曲や文楽など、サポートがなければ立ち行かなくなる芸能もありますからね。かつて大阪では、お旦(旦那)がタニマチとなって芸能を支えてきましたが、そうした慣習が薄れてきたことも、大阪の文化や文化活動を衰退させる一因になっているように思います。



公演中の春野恵子さん
(写真提供：株式会社ファイブリーブス)

太下 例えば寄付大国のアメリカと比べると、日本は宗教観も税制も違いますから、同じようなことはできないでしょう。しかし、日本独自の寄付文化を促す方策があります。それが「遺贈(遺産寄付)」です。日本は超借金大国だといわれていますが、それと同じくらいの個人資産もあるといわれ、その多くが高齢者に偏っています。ご遺族の方には、相続税を納めるくらいなら遺贈して文化振興に活用していただきたい。言ってみれば、「文化の世界に名を残そう運動」ですね。

堀井 アーツサポート関西もその点に着目し、遺贈の場合は税を全額控除できる団体としての資格を受けています。例えば「浪曲の振興に役立ててほしい」というお申し出に従って、その方のお名前を冠した寄金を作らせていただきます。寄金を何年で使い切るかはご自由に決めていただければいいし、高額であればその運用益で助成することもできます。遺贈された助成金はガラス張りであり、使い道が明示されます。すでに、この制度を利用したいという打診もいくつか来ています。五輪文化プログラムにも、是非ご活用いただきたいと思っています。

太下 そういう運動はどんどん広げていってほしいですね。また、遺贈を希望される方のなかには、どんな分野に助成し

てよいか分からない方もおられるでしょうから、助成先を提案できる文化支援の専門家や、それを行う機関やシステムが必要です。寄付を小出しに使う、公演回数を増やすだけが能ではありません。将来につながる効果的な助成を行うために、きちんとした意見を添えて、使い方を提案できなければなりません。それをするのが地域版アーツカウンシルだと思います。

堀井 春野恵子さんは、海外での浪曲公演も精力的に行っておられます。ニューヨーク公演では、その資金集めにクラウドファンディング(インターネットを利用して不特定多数の人から資金調達を行うシステム)を活用されました。

春野 浪曲を知っている人はクラウドファンディングをご存知ないし、クラウドファンディングを知っている人は浪曲をご存知ないという状況のなかで、ちゃんと集まるのかとても不安でした。海外公演を成功させたいというだけでなく、これを機に多くの人にクラウドファンディングを知ってもらいたいと思っていましたので、絶対に失敗したくありませんでした。

堀井 どれくらい集まりましたか。

春野 目標は90日間で300万円でしたが、最終的には559万円も集まりました。でも、まだまだ日本でクラウドファンディングは知られていないと思います。アメリカにはキックスター(Kickstarter: クリエイティブな活動を行いたい人や団体のために、クラウドファンディングによる資金調達を行う民間企業)という、何億円と集めて大きなプロジェクトが行える組織やシステムがありますが、このことを私がお客様に聞いても知っている人は少ない。日本人の感覚からすれば、やはり「遺贈」の方が分かりやすいですね。

堀井 向うでは英語で浪曲をされたんですね。

春野 はい、『番町皿屋敷』をしました。腰元のお菊が、家宝の皿を割ってお殿様の寵愛を確かめる話ですが、翻訳を手伝ってくれたアメリカ人の女性に、身分違いによる恋愛観の違いを理解してもらうのが大変でした。また、『神田松五郎』と



モスクワ公演での春野恵子さん
(写真提供：株式会社ファイブリーブス)

いう話では、子宝に恵まれない夫婦が子どもを引き取り、川の字になって寝るというシーンがありますが、これも「アメリカ人には絶対理解されない習慣なのでカットしましょう」と言われて驚きました。でも、本当に多くの人が日本文化に興味を持ち、日本語を勉強していることを知り、嬉しかったですね。

文化プログラムを盛り上げるために

堀井 イギリスでは、アーツカウンシルの財源に宝くじの売上が一部入っているそうですが、日本でも、五輪文化プログラムを推進するための文化宝くじのようなものを発行してはどうかと考えます。また、大阪では行政や経済団体がカジノを含むIR(統合リゾート)の誘致に懸命ですが、反対意見もあって実際どうなるか分かりません。私どもは、これを推進するなら、その収益を文化振興に回すということをきちんと旗印に掲げてほしいと申し上げています。

太下 「宝くじ」はいいアイデアですね。私は講演などで、カジノを作るならその収益を文化振興に回すべきだと言っています。

堀井 いま一つ伺いたいのは、五輪文化プログラムを推進する仕組みや、文化プログラムであると承認する機関はどこかということです。政府が予算化し、霞ヶ関がヘッドとなって文化プログラムの認定証となるロゴマークを発行し、あるコンセプトにしたがって補助金を付けて全国的に展開されるのでしょうか。私ども民間感覚からすれば、そうした中央主導の旗振りではとても20万件は達成できないと思います。そもそも文化振興は国の補助金を待って行うものではなく、自分たちでやってやろうという市民の気概が原動力です。私どもは、それを形にする良い方策はないかと模索しているところです。大阪で行われるさまざまな文化活動に文化プログラムの一環であると示すロゴを冠することで、全体として統一感のある盛り上げを図ることができます。

太下 文化プログラムのコンセプトといっても、活動内容を縛るものではないと思います。そんなことをすれば20万件を達成できません。また、文化プログラムとして承認するのは、厳密に言えば組織委員会(公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会)でしょう。文化プログラムの統一ロゴマークが作られるとするならば、そこから発行されます。文化プログラムとして認定するかしないかは、いろんな考え方や方法があると思いますが、例えば要件さえ満たしていれば認可されるとして、1件当たり1分で事務処理したとしても、20万分かかります。これを東京で1人の専任担当者が通常の勤務時間内で処理すると丸2年かかる計算ですから、認定業務を東京で集中して行うことは現実的ではありません。つまり、認定業務自体を地域に分散していくことが大事です。そうすれば文化プログラムを実施する現場と

も近いので、他団体との共催や助成金を使って内容を膨らませるなど、アーティストや文化団体の思いに寄り添ったアドバイスの行えるでしょう。それこそが地域版アーツカウンシルの役割になると思います。

堀井 ASKでも、助成申し込みに対して審査会が審査したり、アドバイスやフォローアップなども業務として行っています。

太下 霞ヶ関的な発想で言えば、地域のアーツカウンシルは行政の外郭団体というイメージがありますが、アーツサポート関西は純粋な民間組織ですからね。行政の委任業務を担うという形もあるでしょう。

堀井 当協会は行政と経済界、民間が一緒になって発足しましたが、その後の行政改革で行政からは補助金も人的支援も受けず、純粋に民間の賛助金だけで運営しています。ただし、大阪文化祭賞のように行政(大阪府・市)と当協会が合同で行うプロジェクトもあります。文化プログラムもそうした形で展開することもあり得るでしょう。

パートナーシップ

堀井 イギリスでは、いくつかの文化団体がパートナーシップを組んで行う「リーズ・キャンパス」という活動があるようですが、それはどのようなものですか。

太下 イギリス中部のヨークシャー地域に、「リーズ」という人口70万人ほどの都市があります。「リーズ・キャンパス」は、



目抜き通りでのダンスパフォーマンス(リーズ・キャンパス)



街頭演劇(リーズ・キャンパス)

(撮影者:太下義之氏)



このまち全体をキャンパスに見立て、ここを拠点に活動するさまざまな分野の文化団体やアーティストがネットワークを組み、ひとつの大きな文化プロジェクトを展開するものです。2012年のロンドンオリンピックを契機に始まり、ヨークシャー地域で今も

続けられています。東京オリンピックも、そうしたネットワークをつくるきっかけになるでしょう。また、1992年のバルセロナオリンピックでは、スペイン・カタルーニャ州の人たちはオリンピックの開催年だけ文化プログラムを実施するのはもったいないと考え、1988年のソウルオリンピックが終わったときから1992年のオリンピック開催まで、ずっと続けています。現代美術館を建てたり、選手村の跡地を住宅エリアにして若者の人気を得るなど、さまざまな仕掛けで観光客を増やし、ホテルやレストランなどの商業施設も増えて、まちを再生させました。大阪でも、2020年に向けて文化でもう一度都市を再生させるんだという意気込みが大事ですね。浪曲のように、演者が物語を語り、観客がイメージを働かせて楽しむような、演者と観客が半分ずつ共同で作り上げる芸能は世界にもあまり例がありませんから、大阪の独特な芸能文化を世界に発信するチャンスです。

春野 私が東京から大阪に来たとき、大阪には立っただけでも地面から文化や歴史を吸収できるような感覚を持ちました。そんな大阪の文化風土を伝えるためにも、気合いを入れたいですね。

堀井 今やSNSで情報はすぐに広がりますから、浪曲の面白さや春野恵子さんのような若手浪曲師が注目されるような、新しい流れも作りやすい。そのためにも、浪曲であれ、オペラであれ、音楽であれ、志ある文化団体がパートナーシップを組んで、東京にはできない関西・大阪ならではの文化プログラムを行う仕組みが必要です。

最後のチャンス

太下 メディアと文化の関係でいえば、かつて浪曲はレコード産業やラジオ放送の興隆を支えたといえるでしょう。そのように浪曲は、メディアの変化の最先端にありましたから、そのマインドを取り返すチャンスでもあります。

堀井 浪曲界をはじめ、伝統芸能の世界では慢性的な後

継者不足に悩んでおられると聞いています。だから文化プログラムを契機に、そうした後継者も増えてほしいという思いもあります。

太下 芸術や芸能で生計を立てるのは難しいというのが20世紀の常識でした。しかし、そういう状況がずっと続いたら、後継者はいなくなり、文化は継承されません。文化にかかわる職業を持続可能な社会にしなくてはならないのです。文化庁は第4次基本方針(2015年5月22日閣議決定)に、2020年の東京オリンピックを契機として、「文化芸術に従事する者が、安心して希望を持ちながら働いていける」という状況をつくると明記しています。つまり、2020年までに日本の文化状況自体を大きく変革しようとしているのです。現在の人口減少の状況から考えれば、これが日本の文化状況を変える最後のチャンスとなるでしょう。

堀井 まさにその通りです。

太下 1964年の東京オリンピックのときは、「グラフィックデザイナー」という職業が日本で広く認知されました。グラフィックデザイナーの亀倉雄策さんが、陸上選手や競泳選手をモチーフにしたインパクトの強い五輪公式ポスターを作り、多くの人々がビジュアルメッセージの大切さを理解したのです。以来、行政も民間企業もポスターにお金をかけるようになり、グラフィックデザイナーが職業として確立し、社会に定着しました。これが1964年東京オリンピックのレガシーなのだと思います。2020年もそうした大きな文化的変化が起ってほしいし、そうでないとだめですね。

堀井 オリンピックというと、大抵「総合芸術監督」という人が任命されますが、地域の文化プログラムにまで、そうした役職は必要なのでしょうか。

太下 開会式や閉会式を演出する芸術監督は、直近2大会の傾向があります。2008年の北京大会はチャン・イーモウ氏、2012年のロンドン大会はダニー・ボイル氏で、どちらも開催国の映画監督でした。開会式や閉会式はとてもお金がかかりますし、多くのクリエイターやアーティストをまとめ上げなくてはなりません。それができる人として、多くのお金や人を動かすのに慣れた映画監督が選ばれたのでしょう。とはいえ、地域に必要なのは、芸術を支援する専門家です。支援されるのはアーティストのほうで、支援する側にはアーティスト以外の文化の専門家が必要でしょう。

準備進む各地の状況

堀井 京都は文化プログラムに早くから取り組んでいるようですが、現在、日本各地ではどのような取り組み状況でしょうか。

太下 ホストである東京都は、文化プログラムのリーディングプロジェクトを2つ行うと宣言しています。1つは演出家の

野田秀樹氏のプロデュースで、国内外のアーティストと交流する「東京キャラバン」で、もう1つはアーティストの日比野克彦氏がプロデュースする「TURN(ターン)」という障がい者を含む一般市民とアーティストの交流イベントです。静岡県では川勝平太知事がアーツカウンシルの設立と文化プログラムの推進を宣言されました。新潟市や前橋市もアーツカウンシルの設立を検討されていますし、沖縄県でも沖縄版アーツカウンシルの設立に前向きです。奈良市は「2016年東アジア文化都市」の開催都市として活動されています。奈良、京都の両市は、当然ながら文化プログラムを視野に入れて活動を展開されるでしょう。

堀井 大阪では、東京オリンピックの翌年の2021年に、生涯スポーツの世界大会である「関西ワールドマスタースゲーム」が開催されます。2017年と2021年には、国内外の食文化を発信する4年に1度の食の祭典「食博覧会」を開催します。これらをオリンピックの文化プログラムと関連づけて、2021年まで文化による一層の盛り上げを狙っています。

太下 どちらもいいタイミングですね。とくに日本の「食」に対する外国人の関心は高いです。昨年開催されたミラノ万博では、食をテーマにした日本館に入館するのに8~9時間待ちという状態でした。「食博覧会」は文化プログラムとしてうってつけですね。

春野 私もミラノ万博に行きましたが、イタリア人がそこまですると思うほど、日本の食に対する関心の大きさにとても驚きました。

太下 そこで疑問に思ったのが、どうして日本にミラノ万博の「日本館」のような施設がないのかということです。日本に来る外国人観光客がどんどん増えているのに、日本の食文

化を分かりやすく紹介する施設がないとは思議です。入場料を払って万博の日本館に並ぶほどですから、民間事業としても十分採算がとれるでしょう。

春野 ニューヨーク公演のときも、現地で世界の食文化を紹介するイベントがあり、日本のだし文化や堺の包丁などが紹介され、多くの人が集まっていました。

太下 日本の伝統芸能を紹介する施設があってもいい。

春野 山本能楽堂が「上方伝統芸能ショー」という企画で、能・狂言、文楽、落語、狂言、女道楽、お座敷芸などを、それぞれ15分ずつぐらいショーケース的に上演されているのはありますが、常設でなければ観光客の方に観ていただく機会はぐんと減りますね。

太下 そういう施設が常設されていると、若手の研鑽の場にもなりますね。さらには多言語対応にするだけでなく、日本の古典芸能を外国人に分かりやすいように説明することも必要です。外国人に「日本の重要無形文化財だから」といっても理解してもらえませんから、例えば「能は余分な動きを究極まで削った結果、あれほどゆっくりした動きになる」といったように分かりやすく解説することが必要です。今の子どもたちが後期高齢者になる頃には、日本の人口は現在の半分になっているだろうといわれています。そのとき日本人の幸せの価値観は、私たちが生きた時代とは大きく変わっていると思いますが、日本の文化が外国から尊敬され、人口では世界のマイノリティーでも、文化的には矜持を持って生きてほしいと思います。

堀井 大阪は数々の伝統芸能を育んできた一方、北前船がもたらした全国各地の文化や世界各国からの文化が結節し、独自の新たな文化を育んできた土地柄でもあります。そ



うした文化の多様性と寛容性を重視しつつ、当協会はオー
ル大阪・関西のミッションの推進役として、東京オリンピック・
パラリンピックの文化プログラムの推進に参画してまいりた
いと思っています。本日はどうもありがとうございました。



太下 義之 (おおした よしゆき)氏

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主席研究員
公益社団法人日展理事、公益財団法人静岡県舞台芸術セ
ンター (SPAC) 評議員、公益社団法人企業メセナ協議会監
事、文化経済学会<日本>理事、文化政策学会理事、コン
テンツ学会理事、政策分析ネットワーク共同副代表、文化庁
文化審議会文化政策部会委員、東京芸術文化評議会委
員、大阪府・大阪市特別参与、沖縄文化活性化・創造発
信支援事業 (沖縄版アーツカウンシル) アドバイザリーボード
委員、鶴岡市食文化創造都市アドバイザー、新潟市文化ス
ポーツコミッションアドバイザー、文化情報の整備と活用100
人委員会委員、著作権保護期間の延長問題を考えるフォー
ラム発起人、など文化政策関連の役職を多数兼務。

春野 恵子 (はるの けいこ)さん

浪曲師 公益社団法人浪曲親友協会 理事
東京大学卒業後、『進め!電波少年』(日本テレビ)の企画に
おいて、家庭教師・ケイコ先生としてデビュー。その後、タレン
ト・女優としての活動を経て、2003年、二代目春野百合子
に弟子入り志願、2006年に初舞台と浪曲師としての活動を
はじめ、全国各地で公演を重ねる。また、2014年初の海外公
演をニューヨークで行うなど活動を世界に広げている。2012
年「咲くやこの花賞」大衆芸能部門受賞。

関西各府県の主な事業予定(2016~2022年)

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
				●東京オリンピック・ パラリンピック		
> オリンピック文化プログラム <						
<ul style="list-style-type: none"> ●与謝蕪村生誕300年 ●神戸空港開港10周年 ●伊勢志摩サミット ●スポーツ・文化・ワールド・フォーラム ●百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録運動 参議院選挙 (リオデジャネイロオリンピック) 	<ul style="list-style-type: none"> ●食博覧会2017 ●大津宮遷宮1350年 ●大丸創業300年 ●大政奉還150年 ●神戸港開港150年 ●関西・大阪21世紀協会設立35周年 兵庫県知事選挙 	<ul style="list-style-type: none"> ●薬師寺遷寺1300年 ●春日大社創建1250年 ●平清盛生誕900年 ●西行生誕900年 ●明治維新150年 ●大阪港開港150年 ●大阪市中央公会堂開館100年 ●「古都奈良」世界遺産登録20周年 京都府知事選挙 	<ul style="list-style-type: none"> ●長命寺創建1400年 ●グリコ創業100年 ●ラグビーワールドカップ 参議院選挙 統一地方選挙 大阪府知事 大阪市長選挙 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本書紀編纂1300年 ●大阪城修築400年 ●大阪万博50年 ●近鉄難波線開業50年 	<ul style="list-style-type: none"> ●関西ワールドマスタースターズゲーム ●食博覧会2021 ●比叡山開創、最澄1200年遠忌 ●大阪造幣局創業150年 ●大阪大学創立90周年 兵庫県知事選挙 	<ul style="list-style-type: none"> ●聖徳太子1400年遠忌 ●北陸新幹線敦賀延伸 ●関西・大阪21世紀協会設立40周年